データ（アナログ資料）の保持は保たれるのか。

企画政策課長　①②③　本町においても、ＡＩは有効な技術の一つとの認識であり、職員の業務を補助するツールである。費用対効果を勘案しながら、必要に応じて導入を検討していくこととしている。コンサルタントの業務削減や事務職の削減等を目的としたものではない。今年度は、町民の健康増進に関する分野においてＡＩを活用した産学官共同による研究を進めていく。

④　ＡＩの導入にあたっては、当然のことながら情報流出やバックアップ体制について対策を講じた上で導入することとしている。

一方で、紙データ（アナログ資料）の保持については、災害時の避難者名簿など、必要なものもあり、可否を判断しながら、住民の皆様の命や権利に関わる情報等については、紙媒体で対応・確認できるアナログな管理・保存体制も確保しておくべきだと考える。

高齢化対策提案　福祉の町、高齢者に優しい街の実現のために高齢者向けの住居（アパート）の建設の考えはあるか

議員　数ある高齢者対策の中で、今回は生活の基盤である「住居」について伺いたい。

住居の1階部分には、健康管理（定期的な検診）や生きがいづくり（娯楽施設）のコーナーを併設して、一括して「見守り体制」を整える。

不慮の事故や孤独死などの予防にも繋がるし、そういう施設（住居）があれば、Ｕターンして大町に戻りたいという大町出身者の意向にも応えられる。

①　高齢化の町を逆手に取る計画はあるか。高齢者対策は、大町の町政課題の最大テーマだ。

②　シルバーハウジングとは、どのような特徴を持つ住宅か。

③　ＵＲ賃貸住宅の存在を、どのように受け止めているか。

④　大町でシルバーハウジングやＵＲ賃貸住宅の様な高齢者向けの住宅建設は可能か。

福祉課長　①　本町における高齢化の進行は重要な課題であり、次のような取り組みを進めている。

第1に、「住民主体の通いの場」づくりである。「いきいき百歳体操」などの自主的な活動を行う通いの場では、高齢者同士の結びつきが強化され、地域全体の活性化や共助の精神の醸成につながっている。

第2に、「住民ボランティアの育成」である。「大町縁ジョイ会」では、元気な高齢者の方が、支援を必要とする高齢者の方に対して、外出や買い物の支援、介護予防活動を行っておられる。

第3に、「まちバス・タクシーおでかけ支援助成事業」である。買い物など外出促進を図るため、運転免許証を保有しない75歳以上の高齢者に対し、まちバスやタクシーで使える「イキイキおでかけチケット」を配布している。

第4に、「シルバーｅスポーツ普及啓発事業」である。ｅスポーツを活用した介護予防事業に取り組み、社会参加の促進や認知機能低下防止を図っている。

②　シルバーハウジングとは高齢者や障がい者向けの公営の集合住宅で、手すりやバリアフリー、緊急通報システムの設置などの施設、生活援助員による生活相談や安否確認・緊急対応の体制が取られている場合など高齢者が自立して生活できる施設、環境を整えたものである。

③　ＵＲ賃貸住宅は独立行政法人都市再生機構が管理・運営する賃貸住宅で、礼金が不要で、敷金と日割家賃、共益費のみで入居できるとされており、初期費用が抑えることができる。

④　ＵＲ賃貸住宅は、独立行政法人都市再生機構が管理・運営する物件であり、町の判断での建設はできない。

シルバーハウジングについては、新設や現行の住宅の活用により、制度としては可能であり、趣旨・制度を否定するつもりはない。

ただし、新設については、費用面という大きな問題があり、現行の施設利用とした場合も、「生活補助員の駐在やその利用料の負担」ということから、多くの課題がある。

現時点で、設置する考えはない。

町では老朽化した簡易平屋団地の対策、整備等を優先したいと考えている。

▲対策が待たれる簡易平屋団地